

# 組織学実習

科目責任者 徳田 信子  
学年・学期 2学年・1学期

## I. 前 文

組織学・解剖学・発生学において学んだ知識を本実習において確認していく。実習ではバーチャルスライドを用いて、染色された標本を観察し、その臓器・組織・細胞をマクロからミクロまで連続して理解することが大切である。

## II. 担当教員

教授 徳田 信子 解剖学  
准教授 上田 祐司 解剖学  
准教授 江原 鮎香 解剖学  
講師 山口 剛 解剖学  
講師 橋 篤 導 解剖学

教授 矢澤 卓也 病理学  
講師 矢澤 華子 病理学  
助教 岩本 雅美 病理学  
助教 柏木 維人 病理学  
助教 石井 順 病理学

## III. 一般学習目標

完成したヒトの正常構造が、細胞およびその有機集合体である組織により、いかに構成されているかを実習によって確認する。

## IV. 学修の到達目標

- 1) 細胞の基本的構造について観察し、理解する。
- 2) 組織の概念を理解し、構造を観察する。
- 3) 器官（臓器）を構成する組織・細胞を観察し、理解する。

## V. 授業計画及び方法 \* ( ) 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。)  
2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション  
6: その他 空欄: 該当なし)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
	4	2	木	6	オリエンテーション	解剖学全教員	
1		7	火	3	循環器・免疫	解剖学全教員	4
2		7	火	4	循環器・免疫	解剖学全教員	4
3		7	火	5	循環器・免疫	解剖学全教員	4
4		7	火	6	循環器・免疫	解剖学全教員	4

回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
5		14	火	3	呼吸器	解剖学・病理学全教員	4
6		14	火	4	呼吸器	解剖学・病理学全教員	4
7		14	火	5	呼吸器	解剖学・病理学全教員	4
8		14	火	6	呼吸器	解剖学・病理学全教員	4
9		21	火	3	消化器（口腔～食道・唾液腺）	解剖学全教員	4
10		21	火	4	消化器（口腔～食道・唾液腺）	解剖学全教員	4
11		21	火	5	消化器（口腔～食道・唾液腺）	解剖学全教員	4
12		21	火	6	消化器（口腔～食道・唾液腺）	解剖学全教員	4
13	5	13	水	3	消化器（胃～肛門）	解剖学全教員	4
14		13	水	4	消化器（胃～肛門）	解剖学全教員	4
15		13	水	5	消化器（胃～肛門）	解剖学全教員	4
16		13	水	6	消化器（胃～肛門）	解剖学全教員	4
17		19	火	3	消化器（肝臓・膵臓）	解剖学全教員	4
18		19	火	4	消化器（肝臓・膵臓）	解剖学全教員	4
19		19	火	5	消化器（肝臓・膵臓）	解剖学全教員	4
20		19	火	6	消化器（肝臓・膵臓）	解剖学全教員	4
		25	月	1・2	中間試験	解剖学全教員	
21		26	火	3	血液・骨髄	解剖学全教員	4
22		26	火	4	血液・骨髄	解剖学全教員	4
23		26	火	5	血液・骨髄	解剖学全教員	4
24		26	火	6	血液・骨髄	解剖学全教員	4
25	6	2	火	3	内分泌器	解剖学全教員	4
26		2	火	4	内分泌器	解剖学全教員	4
24		2	火	5	内分泌器	解剖学全教員	4
28		2	火	6	内分泌器	解剖学全教員	4
29		9	火	3	泌尿器・男性生殖器	解剖学全教員	4
30		9	火	4	泌尿器・男性生殖器	解剖学全教員	4
31		9	火	5	泌尿器・男性生殖器	解剖学全教員	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担当者	アクティブ ラーニング
32		9	火	6	泌尿器・男性生殖器	解剖学全教員	4
33		16	火	3	女性生殖器	解剖学全教員	4
34		16	火	4	女性生殖器	解剖学全教員	4
35		16	火	5	女性生殖器	解剖学全教員	4
36		16	火	6	女性生殖器	解剖学全教員	4
37		23	火	3	視聴覚器	解剖学全教員	4
38		23	火	4	視聴覚器	解剖学全教員	4
39		23	火	5	視聴覚器	解剖学全教員	4
40		23	火	6	視聴覚器	解剖学全教員	4

#### VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

以下のとおり成績評価する。（ ）内は評価の割合。

定期試験（85%）、課題など（15%）

#### VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：標準組織学 各論 藤田・藤田（著）医学書院

バーチャルスライド 組織学 駒崎著 羊土社

参考書：カラーアトラス 機能組織学 カー著 河田・小路（監訳）医歯薬出版

Ross 組織学 内山（監訳）南江堂

人体の正常構造と機能 坂井・河原（編集）日本医事新報社

#### VIII. 質問への対応方法

基本的に毎回の講義終了時に疑問は解決すること

問い合わせ先：解剖学講座 受付・前室（総合教育研究棟8階 813室）月～金曜日 8：30～17：00

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

\*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
<b>医師としてのプロフェッショナリズム</b> 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	○
<b>能動的学修能力</b> 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
<b>地域医療の理解</b> 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
<b>国際性</b> 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
<b>リサーチマインド</b> 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	○

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習課題は、実習中に巡回する教員が随時質問に応じる。

試験内容については、希望があれば講評・解説する。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習（20分）：医学書院eテキスト、iSmart、推薦されたテキストおよび『解剖学各論II』の資料などの該当箇所を読み、観察すべき構造や用語をあらかじめ把握しておくこと。特に、実習で確認したい点や不明な点を事前に整理し、「どこを見るか」「何を確かめたいか」を意識して実習に臨むことを重視する。

事後学習（15分）：実習で観察した所見を振り返り、テキストや配布資料と照らし合わせながら、構造・名称・位置関係を整理すること。あわせて、観察結果が機能や臨床像とどのようにつながるかを考察し、事前に立てた疑問がどのように解決されたかを確認することを重視する。

XII. コアカリ記号・番号

PS-02-06-01, PS-02-02-01, PS-02-07-01, PS-02-08-01, PS-02-14-01, PS-02-09-01, PS-02-10-01, PS-02-15-01, PS-02-16-01